

普及活動情勢報告（平成19年2月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

第4回『ナス栽培技術』地区別講習会の開催



やっぱり土づくりやにゃ～！

2月5～15日にかけて安田町・田野町・奈半利町の各地区8ヶ所でナス生産者を対象とした栽培講習会を開催。約60名の農家が参加した。地区別講習会は、研究会活動に参加できない生産者に対し技術の高位平準化を図るために実施している。今回は土作り、青枯病対策をテーマに開催し、堆肥の現地実証試験や現地実証による青枯病対策等の経過報告を行った。会では特に「太陽熱消毒の有効な方法は」「有望な抵抗性台木の選択は」といった青枯病対策での意見が多く、関心が高かった。今後とも地区別講習会をおこない、栽培技術の向上を図っていく。

農業基礎講座修了式



修了証書授与

22日、第8回をもって今年度の基礎講座が終了。新規就農者等の営農のスムーズな定着を目指してセンターが主催しているもので、延べ人数50人が参加。最終講義内容は「基礎を学ぶ意義」。「観察力とは体内生理の変化を読むこと。ナスが決定的なダメージを受ける前に早めに手をうつ、これが篤農技術」。「技術だけでなく、正しい読みには“基礎”を学ぶことが重要」など。その後、講座生から「ナス20トンを目指す」とか、「本格的にこの春からピーマン栽培を始める」など力強い決意表明があった。

中芸地区「お国自慢大会」の開催



農業振興センターでは、都市との交流の受け皿組織をつくるため、2月16日、北川村民会館で中芸地区「お国自慢大会」を開催し、生産組織、加工グループ、交流組織、直販所関係者約40名が参加した。

第一部「地域の食を知り合おう」で田舎寿司などの郷土料理や加工品の展示・試食と求評を行った。第二部「自慢大会・お互いの交流資源を知り合おう」で各組織の交流活動を事例発表した。

参加者より「町村ごとに特産があり、一体化することで大きな効果になる。生産・加工・販売がタイアップして自分達の納得できる価値を求めていきたい」の意見がでた。今後は「中芸地区ふるさと・食・文化お国自慢会議」をたちあげ、地域産物を詰め合わせた商品づくりと情報パンフを作成していくことになった。

第2回ゆず講座 剪定編



わかりやすい樹形に、
えいやー！！

春本番！？ 剪定の時期が到来し、ゆず山はにぎやか。それに合わせ、JA土佐あき柚子部のユズ講座が、北川村で開かれた。兼業の部員に配慮し、日曜日（17日）に開催、40名の参加があった。テーマは勿論、「整枝・剪定」。「柑橘の木の成長特性」についての講義のあと、現地にうつり、実演。「細部にこだわらず、木を大きい単位で見ること」。そして、「主枝は主枝らしく、亜主枝は亜主枝らしく、側枝は側枝らしく」を心がけることが大事」と実地で説明。「いままで剪定はむづかしいと思っていたが、分かりやすかった」と、これからの剪定に自信がついた様子であった。

守れ「吉良川千両」ブランド



情報交換を行う部会員

2月22日にJA土佐あき吉良川千両部会では現地検討会を開催し農家11名が参加した。

各生産者の圃場を巡回したが、昨年に続き今年も出荷の減少が予想される。

農業振興センターからは、過去の生育着果調査をもとに潮風害や老木化による樹勢低下から収量の低下を指摘した。参加農家も株の衰弱を強く意識しており、「やっぱり土づくりが必要」とか「株の更新を計画している」という声もあった。

今年は土づくりと改植を図りながら、適正な施肥・遮光率の確保等で品質を確保していく。